

水中構造物の補修・補強には「NDR工法」

NDR工法 (Neo-Dry Repair Method) とは?

従来、既設水中構造物の補修・補強には、大がかりな締切(鋼矢板、築堤等)が必要であり、施工性、工程、経済性の点で課題がありました。NDR工法は、この課題を解決し、ドライな作業空間を提供する鋼製函体を用いた仮締切工法です。

NDR工法の特徴

1. 調査や補修が気中と同様に行えるため、作業環境や安全性が改善され、施工の品質が向上します。
2. 浮力を利用して運搬、据付が可能のため、桁下で空間がない箇所での施工が可能です。
3. 函体が工場製作のため、現地での工程が大幅に短縮できます。
4. 水域占有面積が小さくて済み、航路や河積への影響を最小限にできます。
5. 同種構造物に転用することで、経済性に優れます。
6. 円形、小判形、矩形などの柱状構造物のみならず、鋼矢板のような壁状構造物やフーチングを有する構造物など、様々な構造形式と形状に対応できます。
7. 専用の止水パッキンを使用し、確実な止水が可能です。

各種構造物 適用事例

対象構造物	橋脚		鋼管杭、RC杭、橋脚	岸壁、護岸、堤体
形式	着底型	抱付型	抱付型	張付型
模式図				

着底型 (橋脚対象)



抱付型 (橋脚対象)



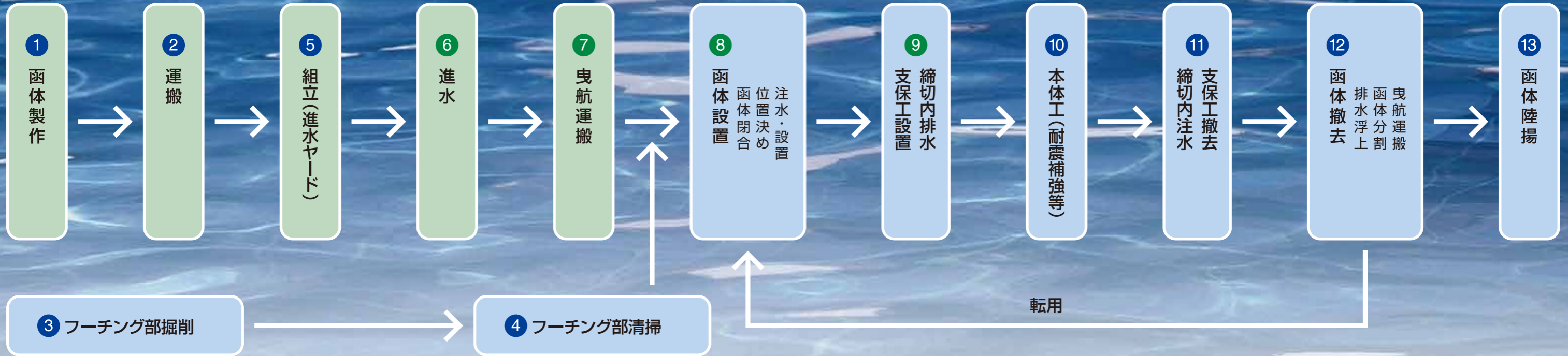
抱付型 (鋼管杭対象)



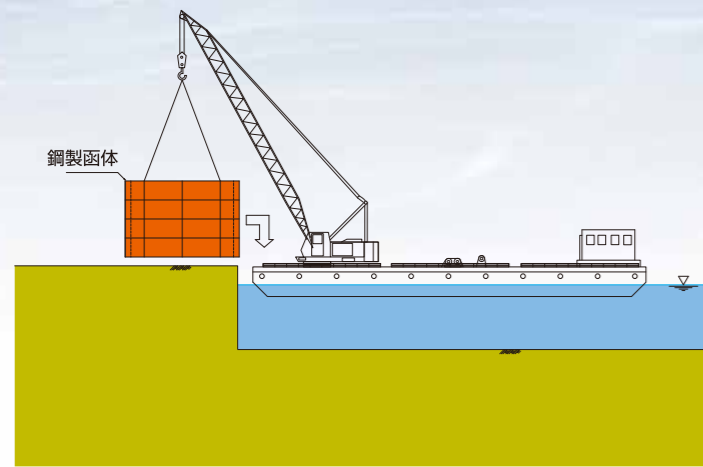
張付型 (護岸対象)



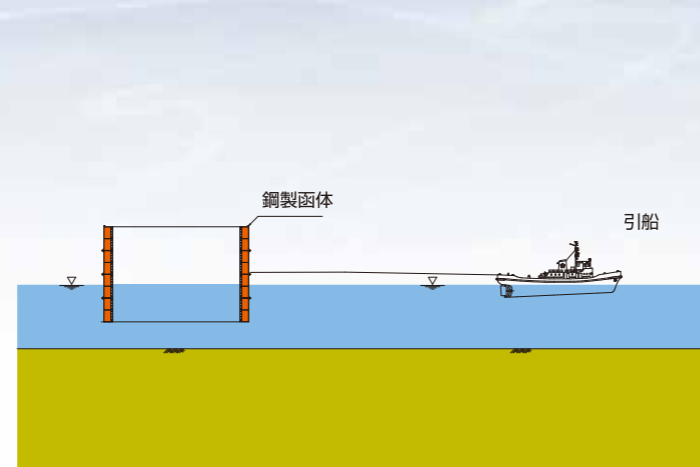
施工手順



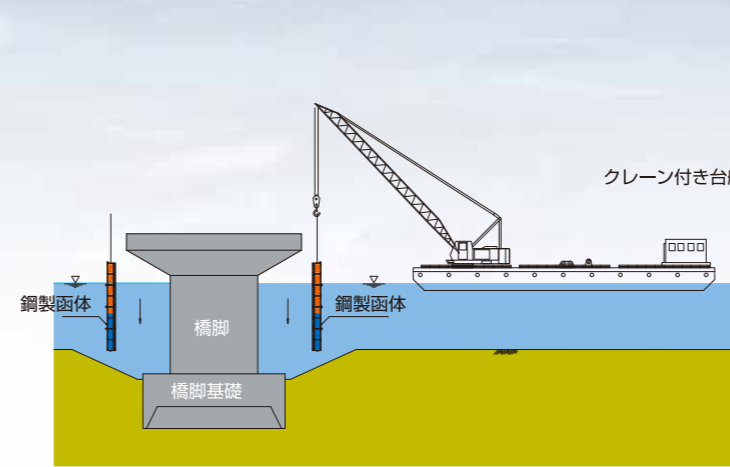
6 進水



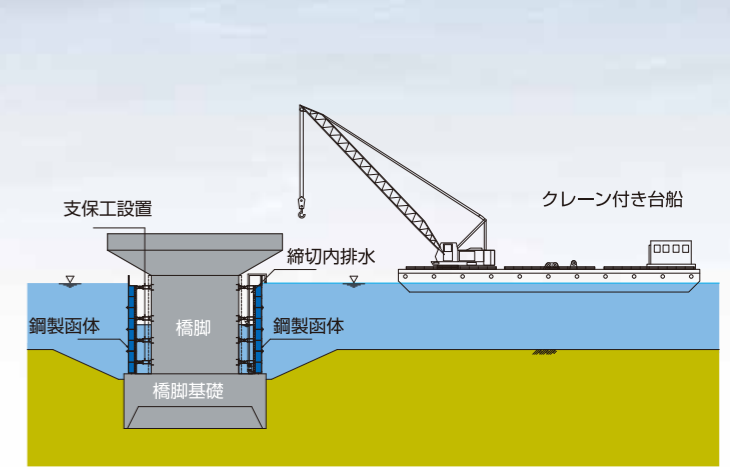
7 曳航運搬



8 函体設置



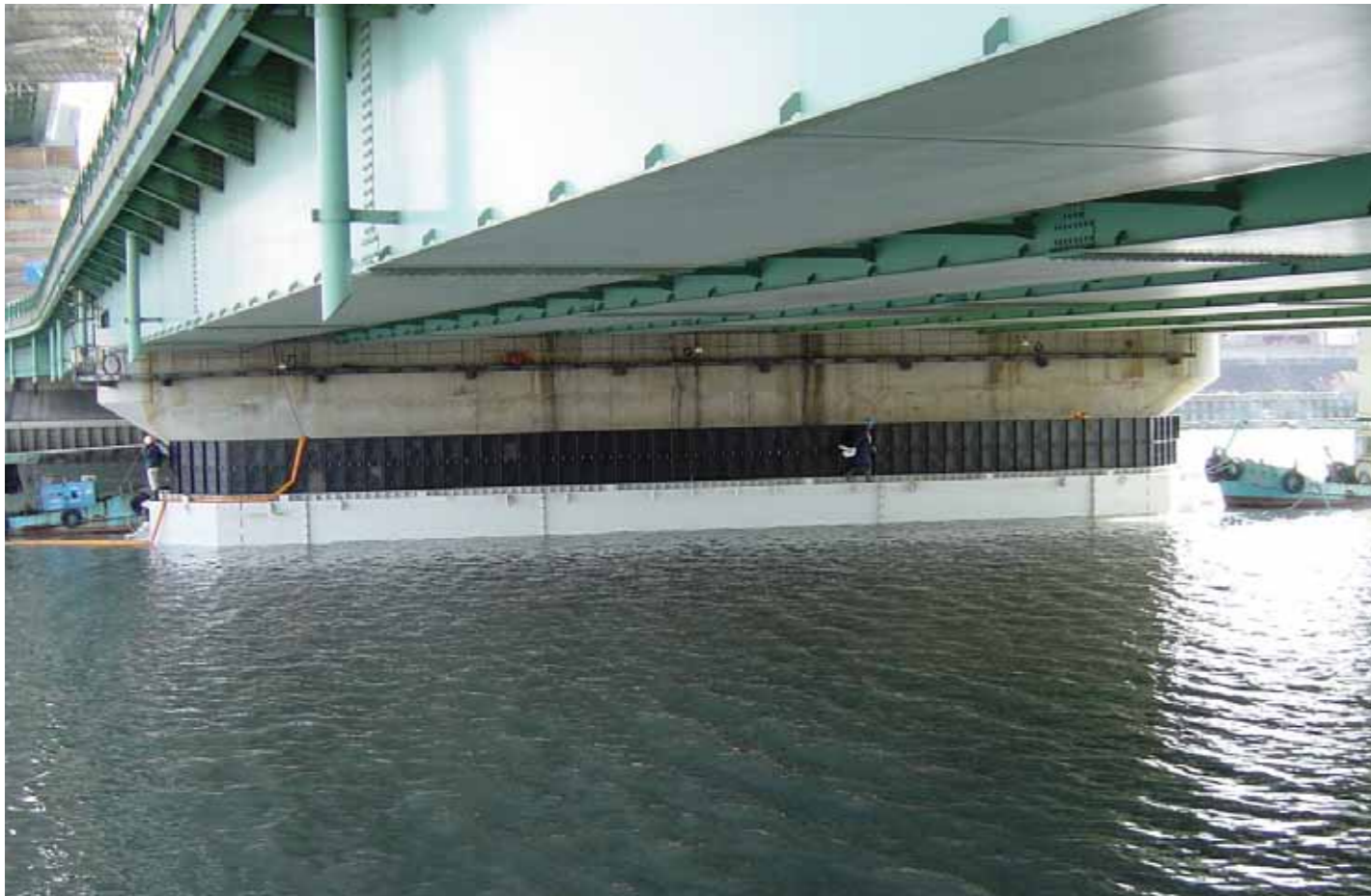
9 支保工設置・締切内排水



施工性と経済性を追求します。

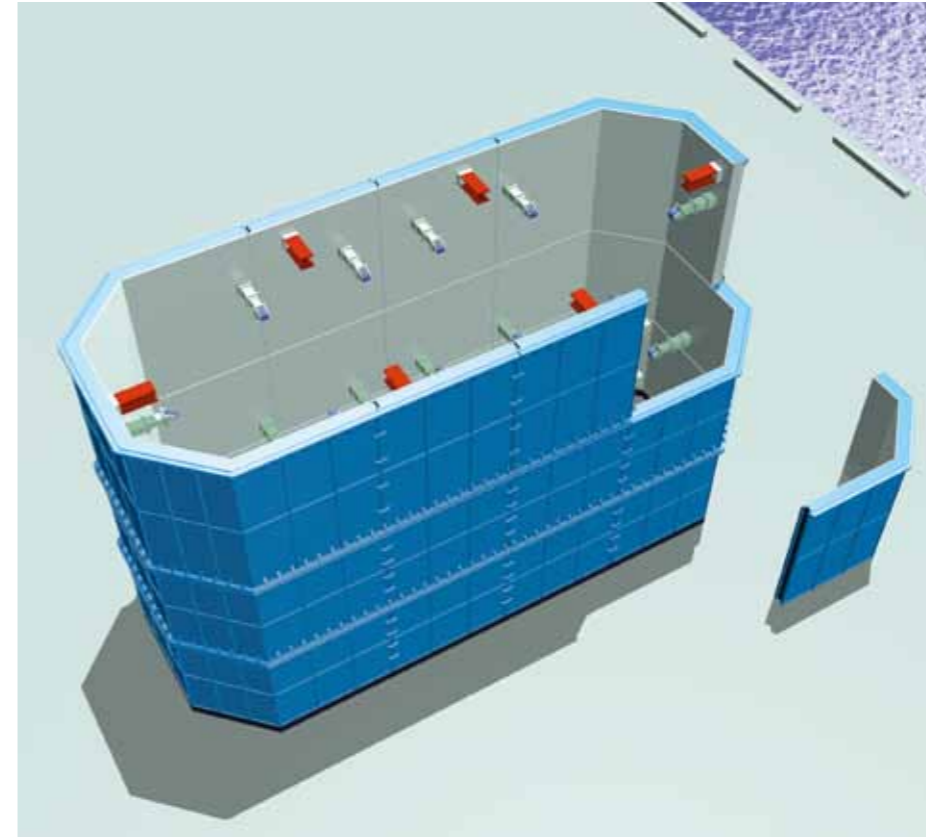
低空頭域での施工

浮力を利用するため、大型のクレーン等がありません。



函体の転用

函体をユニット化することで、運搬や転用が容易になります。



様々な形状に対応

壁上構造物への適用も可能となります。

